

## 5G・IoT・AI コンソーシアム「DX 大賞」 エントリーシート

事業名（30字以内）
市民マイページとGISを活用した市民参加型大雨災害写真アーカイブ

応募者情報	
所属名・学校名	酒田市（企画部企画調整課デジタル変革戦略室）
代表者名	酒田市長 矢口 明子
住所	酒田市本町二丁目2番45号

I 事業概要（図表や写真も使用し、内容が伝わるよう具体的に記述ください。）
<p>（1）解決した、解決したい地域課題（自社課題を含む）を具体的に記述ください。</p> <p>【審査視点：地域性】応募者が取り組んでいる課題がどのように地域社会や自社の問題を解決しようとしているかを明確にすることを目的としています。</p> <p>▼背景・課題</p> <p>令和6年7月25日からの大雨による災害時、土砂崩れ、洪水、浸水、冠水等の状況が刻一刻と変化する中、現場への移動が危険・困難、対応に追われる市の災害対策本部が現場の記録写真等を撮影する余裕がないといった状況下にありました。このため、大規模な被害のあった現場・箇所等の写真はあるものの、市全体として広範囲な災害、冠水等の状況を把握する記録写真が少ないことが課題となっていました。</p> <p>また、今回の災害を風化させることなく後世に記録として残すこと、災害状況を見える化し防災意識の啓発につなげることが必要だと考えました。</p> <p>▼解決方法</p> <p>①今後の災害対策の対応を検討するためのデータ収集</p> <p>②防災意識の啓発に活用するための広報資料の収集</p> <p>という観点から、「市民の皆さんが撮影した記録写真を提供していただき、インターネット上でマップデータとして公開し、活用していく」という事業を企画・実施しました。</p>

(2) 課題を解決するために、どのようなデジタル技術を活用していますか。具体的な活用方法に加え、事業化に至った革新的な視点やアイデアも含め記述ください。

【審査視点：デジタル活用・革新性】デジタル技術の具体的な活用方法と革新性について説明してください。これにより、単なる技術導入ではなく、イノベーションの観点も評価します。

### ▼写真収集と公開するための技術

- ①市民の皆さんから写真を提供していただく
- ②収集した写真をアーカイブとして市民と共有していく

以上の2つを実現するために、市民マイページ「さかたコンポ&酒田市公式 LINE」の「まちレポート機能」と、統合型 GIS「さかたマップ」を活用することにしました。

まちレポートは、KANAMETO のサーベイ機能により、道路の陥没・公園遊具の破損などを市に通報できるサービスで、令和 5 年度から開始したものです。市民の属性・興味関心を基に必要な情報を提供する「さかたコンポ」を活用して災害写真を提供・参加いただける方を募集し、市の公式 LINE 上から撮影場所・時間・写真等をアップしていただきました。

アップされた写真は、個人情報が入り込んでいないか等のチェックを行った上で、GIS ヘデータに登録。市民の皆さんからご覧いただけるよう、さかたマップの防災データの一つとして公開していきます。

### ■募集イメージ



撮影場所の位置を選びます  
地図画面が表示されるので、地図上で撮影場所を指定してください。

### ■公開イメージ



(3) 事業効果および実績（収益や経費削減効果など）を具体的に記述ください。

【審査視点：事業実績】実際のビジネス効果や成果を評価することで、導入したデジタル技術の有効性を測ります。

▼予想以上に多くの市民が参加

アーカイブ写真の募集を始めてからわずか3週間弱で、140件を超える市民からの投稿がありました。（10/25時点）

もともと、まちレポート自体が、市政に市民が参加するひとつのきっかけと捉えておりましたが、道路や遊具の故障箇所などの投稿は、月平均4件程度であり、今回の市民参加型大雨災害写真アーカイブへの関心の高さは予想以上のものでした。

アーカイブするデータ数としても、当初見込んでいた2倍以上の写真と説明データを集めることができました。

▼投稿者・市ともに労力を抑制

KANAMETOで投稿者が地図上のポイントを選択するだけで緯度経度データ付きの報告が可能となることから、GISへはそのデータをcsvでインポートするだけなので、GISへの掲載が1分程度で完了できました。

地図上にプロットするための市民側と職員側の労力をデジタル技術でうまく抑えることができました。

(4) この事業で新たに導入した工夫や改善点、その効果について具体的に記述ください。

【審査視点：革新性】新たな取り組みや改善点がどのように課題解決に貢献し、新しい価値を生み出したかを評価します。

▼提供しやすい投稿方法

公式LINE上で募集し、リンクから直接まちレポート機能へ遷移。チャットボットの質問に答える形で撮影日時や場所、写真を投稿できるような仕組みを採用しました。

▼災害情報の見える化

災害の状況をどう分かりやすく伝えるかを考えたときに、表でデータ提供するのではなく、地図上のマッピングデータとして提供するアイデアが出てきました。

Google MapやKANAMETO地図機能の活用も検討しましたが、開発・調整等で時間がかかることから、既存のGISの利用を選択しました。

(5) この事業が地域や他事業などへの影響や展開の可能性について記述ください。

【審査視点：発展性・地域性】事業の拡張性や他の地域・分野への影響、展開の可能性を評価します。これにより、持続可能性や広がりを確認します。

▼市民の善意を簡単に形に⇒多様な分野での応用

今回の大雨災害写真アーカイブの大きなポイントは、やはり「市民が提供してくれたデータ」で構築しているという点です。災害写真アーカイブの必要性に共感していただいたこと、SNS 全盛の時代でみんなが災害の状況をスマホに残していたことなどが多くの投稿をいただいた理由だと考えていますが、既存のデジタルツールをうまく連携させる、チャットボットの投稿の支援をする、誰もが見やすい地図データとして提供する、といった様々な小さな工夫を重ね、市民が参画しやすい環境を提供できたことも一因だったのではないかと考えています。

今回の企画を通して、幅広く災害以外の様々な施策において、市民の善意を簡単に形にすることができる仕組みを構築しました。デジタル技術を活用して市民が市政やまちづくりに参加しやすい環境を提供することが可能だと再認識できました。

今後、災害に限らず市民参画による有用なマップを市民とともに作り、活用することの広がりが期待されます。また、マップというツールにとどまることなく、市民が参加しやすいツールを提供することにより更に市政・まちづくりに資する多様な共創サービスの展開を進めていきます。

**【締め切り】 2024年10月25日（金）**

【お問い合わせ・申し込み先】

5G・IoT・AI コンソーシアム事務局（山形新聞社ビジネス開発戦略部内）

電 話：023-666-5121（平日10時～17時）

メール：biz@yamagata-np.jp